

「もっと響く指導」に するために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。更に響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 2年生 夏休み明けの意識付け



「生きたデータ」2008年9月号を参考に、
2年生夏休み明けの指導に取り組んだところ……

① 夏休み後のアンケート(5段階評価)

	できた	まあできた	どちらでもない	あまりできていない	できていない
部活動への取り組み方はどうでしたか？					
夏休みの課題への取り組み方はどうでしたか？					
課題以外の自主学習の取り組みはどうでしたか？					
規則正しい生活はできましたか？					
進路について考えましたか？					
夏休みならではの経験、夏休みだからできる取り組みができましたか？					



私の狙い

あまり勉強が進んでいない生徒を把握し、入試や進路選択に向けての意識付けを行うおうとした

取り組み内容

夏休みの取り組み内容を尋ねるアンケートを実施し、その結果を元に面談を行った

感じた課題

生徒の夏休みの状況を把握した上で、特に中間層の生徒に対して学習への意識を高めてもらうとう働き掛けたが、具体的な意識向上までには至らなかった

「もっと響く指導」
のポイント

①

「生徒同士の比較によって
もっと頑張れる」に気付かせる



以前、2年生担任を務めた時、「中だるみの雰囲気を払しょくするカギを握るのは、**成績面でも進路面でも危機感をさほど抱かず、更なる意欲を持って主体的に学びに向かうことはしない中間層だ**」と思いました。夏休み明け、彼らの意識を高めて、学習に積極的に向かうクラスにしたいと考えました。



2年生2学期は、高校生活の折り返し地点として志望進路の実現へ向けた意識付けが大切な時期ですから、集団の雰囲気に大きく影響を与える中間層に働き掛けることは重要ですよ。ただ、与えられた課題はこなし、生活態度も特に問題がないので、教師の実態把握が甘く、指導も手薄になりがちです。



前回、「今努力すればもっと伸びる可能性があるのに」という生徒に「苦手克服などテーマを決めて学習に取り組んでは？」と面談でアドバイスしたのですが、生徒の学習の取り組みを変えることは容易ではありませんでした。



「自分にはここが足りないのでは？」と自ら気付かせたいですよ。そこで、**私が重視しているのは、生徒同士で刺激を与え合うことです。「このままでよい」と思っている生徒に、「身近にもっと頑張っている人がいる」と気付かせることが大切です。**計画的に勉強している人、進路の目標を見付けている人が既にいることに気付くことが、自分を考え直す契機になると思いました。

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、2年度目の2学年担任。



A先生(30代)

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、3年度目の2学年担任。



B先生(30代)

※このコーナーは、高校の先生方(今回は関東地方)との検討会の内容を基に構成しています。



中間層の生徒たちは、今のままの学校生活で取り立てて困ることがない生徒。内面ではさまざまな葛藤があるだろうけれど、叱られることも褒められることも少ないだけに、そうした生徒の意識、行動を変えていくのは意外と難しい……。



「もっと響く指導」のポイントと
「生きたデータ」改訂案

夏休みの取り組み自己評価シート

ダウンロード

項目	取り組んだ時間、内容、心掛けたこと、成果など	自己評価(5段階。5が最高点)
毎日の学習時間	平均 () 時間 部活が忙しい時期は何も勉強しない期間があったが、それ以外は学校からの課題に取り組めた。	4
学校からの課題	本格的に取り組んだのは夏休みの中盤以降だったが、夏休み終了までにはすべて終わらせた。	4
自主学習	学校からの課題以外の勉強はしなかった。	2
部活動	部活動には合宿も含めてすべて参加した。タイムを伸ばせた。	5
進路学習	オープンキャンパスに1大学分参加した。	5
規則正しい生活	部活動がある日は、規則正しい生活を送ることが出来た。	5
友だちと比較して感じたこと、2学期から頑張りたいと思ったこと	自分としては、部活動をやりながら学校の課題をきちんとこなせたことにはかなり満足していたが、クラスの友だちの中には、自主学習として自分の苦手な教科や1学期の復習などをしていて驚いた(しかも野球部)。また、オープンキャンパスに3大学も行っている友だちもいた。毎日の勉強時間が1時間ではとても少なかったのだと分かったので、2学期からは学習時間を増やしたい。	

「もっと響く指導」のために
改訂すると……

データを
生かす
指導の流れ

学習や進路、部活動など夏休みの取り組みや気づきを生徒自身に記述させた上で、自己評価させる。それをグループで見せ合ってクラスメートの現状を知り、今の自分を考える。

- 1 生徒に自己評価シートを配布し、各項目について夏休み中に取り組んだことや心掛けたことを書かせ、それを元にした5段階で自己評価させる。
- 2 グループでシートを見せ合ったり、いったん回収し、クラスの生徒全員で共有したりする機会を設ける(全員分印刷して配布する、ファイル化して回覧するなど)。
- 3 生徒に、共有を経て感じたことを一番下の欄に記入させる。それを元に面談し、2学期の指導につなげる。



5段階評価だけで尋ねていたアンケートを、自分が夏休みに実際に取り組んだことを記述させた上で、自己評価させるように改訂するのはどうでしょうか。そして、**クラスで比較し、多くの生徒が学習、進路、部活動など、何かの分野で頑張っていることに気付かせるのです。「A君は自分より勉強しているのに、自己評価は厳しい点数だ」など学習観、進路観の違いに気付くことは、教師の言葉以上に心を揺さぶられ、自分の価値観や具体的な生活**

パターンを見直すきっかけになるはずですよ。



このように客観的に自分の状況を捉えさせることで、改善意識が芽生えそうですね。この気持ちを今後につなげられるように、面談などで後押ししたいものです。その際、夏休みを後悔の念だけで振り返るのではなく、**行事や部活動などで頑張ってきたことは認め、褒めながら、「部活動に加えて、もう少し勉強でも頑張れるのでは？」と問い掛けて、自分自身の言葉で目標を語らせたい**と思いました。

生徒にとって先輩の体験談はとても心に響くものです。しかし、自分に引き付けて、具体的な行動モデルとするためには、体験談をそのまま与えるだけでは難しい場合もあるようです。



「生きたデータ」2008年9月号を参考に、生徒に先輩事例を紹介したところ……

② 先輩のこの時期の学習時間と過ごし方のポイント



	2年生 夏休み明けの 学習時間	3年生 夏休み明けの 学習時間	合格大	この時期のポイント
Aさん	1時間	5時間	●●大	2年生のこの時期は、部活動でも中心になるため、勉強時間が取りにくいと思います。ただ、そういった中で、隙間時間であっても継続的に学習する習慣を身に付けることができれば、受験生になってから楽になります。現に私は、部活が終了したあとは、スムーズに受験勉強に専念することができました。
Bさん	2時間	4時間	▲▲大	夏休みが終わって、何となくだるかったのを覚えています。自分で計画を立てて勉強することはできませんでしたが、少なくとも学校の授業には集中しよう意識しました。だから日々の勉強は、学校の課題と、予習、復習のみでした。でも、その習慣が3年生になったときに生きたと思います。
Cさん	30分	2時間	浪人	夏休み明けは、部活動や学校行事で、ほとんど勉強していませんでした。学校の課題もゆったりやらなかったり…。振り返ると、この時期に学習習慣を身に付けておくことが大切だったと思います。何を勉強すればよいかわからない人は、先生に相談しましょう。思っている以上に、2年生で大きな差をつけられました。

私の狙い

「現状のままではだめだ」という危機感を持たせ、この時期に取り組みポイントを伝えたかった

取り組み内容

先輩がこの時期に取り組みしていた学習時間と学習内容をまとめて提示した

感じた課題

危機感を抱かせることには成功したようだが、漫然としたアドバイスになってしまい、生徒にとって、自分の現在の境遇と照らし合わせた共感が難しかった

「もっと響く指導」のポイント

②

生徒が共感できる先輩事例を基に、
今後の学習の指針を具体的に考えさせる



中だるみした生徒の刺激になればと、先輩の体験談を読ませて、2年生のうちにしておかなければいけないことを伝えようとしたこともあります。危機感を抱かせるという意味では効果はありましたが、**具体的なアドバイスがなかったため、一時的な危機感を抱くだけで終わった生徒もいた**ように思います。



生徒にとって先輩の体験は、教師の言葉以上に説得力を発揮することがありますから、これを活用するのは良いアイデアだと私も思います。でも、生徒の共感を得て、それを具体的な行動につなげるのは簡単ではないですね。



この時期、刺激として危機感を抱かせるだけでは、生徒の変化には

不十分な気がします。**生徒の中には、危機感、あるいはやる気があるのになかなかうまく行動に結び付かない現状に、苛立っている生徒もいます。**そうした生徒には、具体的にどのように学習を進めていけばよいのか、モデルとして先輩の実例を示してあげたいです。



ただやみくもに危機感をあおるのではなく、この時期から頑張れば志望実現が十分可能だという安心感と、そのためにはこれをすればよいという具体的な指針を与えたいですね。夏休みの取り組み自己評価シート(P.35)で自分に足りないものを把握させてから、**先輩の実例をその後の学習の道筋を示す解決策として活用するとよい**でしょう。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます!

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください!

HOME→教育情報誌(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2006年9月号「2年生の夏休み明けの意識付け」

2010年9月号「2年生夏休み後の切り替えと秋からの進路意識の醸成」

2011年9月号「2年生2学期、「中間層」に前を向かせるための意識付け」など



「もっと響く指導」のポイントと
「生きたデータ」改訂案

先輩の体験から、今取り組むべきことを言語化する



先輩名	部活動	2年生の2学期に最も力を入れていたことと、勉強への取り組み状況、後輩へのアドバイス	合格大
Aさん	陸上部	部活がとにかく中心でした。試合へ向けて練習ばかり。そのため、平日は宿題だけをこなせばいいと割り切るようにしました。その代わり、少し時間がある週末には、1週間の学習内容を見直し、分からない点は週明けに先生に質問していききました。また、授業の合間の休み時間も、出来るだけ予習などにあてるようにしました。この時期、後悔のないように部活動に組みながら、引退後に本格的に取り組めるように、分からないところはつぶしておけるとよいと思います。	●●大
Bさん	テニス部	部活や行事はほどほどにしていますが、勉強にはあまり身が入りませんでした。それは、まだ志望大がはっきり決まっておらず、やる気がわかなかったからです。今考えると、だからこそ、勉強をしっかりしておくことが大切でした。私はなんとか合格しましたが、進路が決まった際にも実現可能なように、苦手教科をつくらずに基礎固めをしておけば、3年生になってもう少し楽だったと思います。	●●大
先輩の体験談を読んで、取り組んでみたいと思ったこと		部活動ばかりで、勉強が出来ていないことに悩んでいたが、現実的には勉強の時間を十分確保することは難しく、どうすればよいのかが分からなかった。先輩の例を見て、授業の合間なども利用して、基礎固めをしようと思った。	

「もっと響く指導」のために
改訂すると...

データを
生かす
指導の流れ

今の自分の不足や課題に気が付いた生徒が、先輩の例を参考に、まず自分が取り組むべき優先事項を具体的に把握できるように支援する。

1 生徒の参考になりそうな先輩の事例を受験体験記などから抽出する。その際、生徒が共感しやすいように、さまざまな学力層、属性の先輩を選ぶ。

2 P.35のデータを活用し、生徒に「ここが足りない」「もっと頑張りたい」と意識付けが出来た段階で、先輩のデータを示す。

3 部活動などに従来通り取り組みながら出来る工夫を先輩事例から読み取らせ、具体的に取り組む内容を生徒にまとめさせる。



本校は毎年、浪人が決まった生徒も含めて全員に受験体験記を書かせています。学校の財産として積み上がっているのですから、生徒が今の自分と似た境遇の事例から学べるように、部活動や成績など、さまざまな属性別に提供したいです。



この時期、生徒に与える情報としては、先輩の学習時間よりもむしろ、学習内容や取り組みの工夫を示すことを優先したいですね。数字だけが独り歩きし、「これだけの学習時間でよい」「こんな

に勉強しなければ、合格できない」と決めつけてしまうことは避けさせたいですから。特に**中間層の生徒には、この段階では、今と入試がつながっていることの意識付けと、まず取り組むべき学習テーマの把握をさせればよいでしょう。**



生徒同士での刺激、自らの気付きが生徒の中でどう醸成されているか、普段の声掛けを通して確かめ、必要に応じて更に具体的に学習指針を示していきたいと思っています。